

## DLA 〈書く〉 概要

### (1) 目的

- ・ **DLA** 〈書く〉では、まとまった文(章)を書く力を測ります。
- ・ 書く力は教科学習言語能力の大きな部分を占めるもので、考える力と文字にする力の両方が必要です。文字・文法の習得はもちろん基礎作文力の大切な要素ですが、文字化する前の考える力にも焦点をあてます。
- ・ **DLA** 〈書く〉では、書きたいことがあっても文字化に至らない段階の子どもから考えたことを引き出すため、また、書いたことを振り返り次につなげるために対話を行います。

### (2) 対象

- ・ **DLA** 〈書く〉は、文字習得が一定程度進み文を書くことの指導が始まっている児童生徒、話したことを文字化することができる児童生徒を対象とします。**DLA** 〈読む〉と同様、日本語の文字を十分に習得できていない児童生徒に対しては使用できません。

### (3) 方法

- ・ 課題を与えて考える経験をさせ、書くことへの興味を喚起します。  
低学年・中学年には口頭で課題を与え、高学年・中学生にはプリントで課題を提示します。
- ・ 書くことの習熟度や得意不得意により、二つのやり方があります。
  - ＜自分から進んで書くことができる場合＞  
自分から進んで書くことができる場合には、書き上げた後の対話により、書く姿勢や内容を振り返り、書こうとしたことが何だったのか確認します。
  - ＜なかなか書き始められない場合＞  
書くことを見つけるのに苦労したり、どう書いていいかわからずなかなか書き始められなかったりという場合には、まず、書くことを見つけるために対話を行ないます。書き終わった後にも、振り返りのための対話を行ないます。
- ・ 詳しくはp76の実施手順と留意点、〈書く〉「実践ガイド」をご覧ください。

### (4) 構成

- ・ **DLA** 〈書く〉は、次の5つからなっています。
  - ① 「課題例 W1～W8」  
子どもに合わせて課題を選んでください。  
選ぶ際には  
「年齢枠別作文テーマ」(p74)  
「テーマごとの課題例」(p75)  
を参照してください。  
W1～W4は口頭で与える課題で、W5～W8は課題プリントが巻末資料にあります。
  - ② 「実践ガイド W1～W8」(「書くまえに」「書きましょう」「書いたあとで」)(p80-95)  
課題例に沿って手順や発問例を用意しました。  
事前に読んでおき、また、実施の際に必要なに応じて参照します。

- ③ 巻末資料
  - ・低・中学年の場合は、作文用紙（p.165 - 167）
  - ・高学年の場合は作文課題（p.163 -164 課題番号W5～W8）  
必要に応じて拡大コピーしてお使いください。
  - ★高学年以上は原稿用紙を用意してください。
- ④ 「診断シート W1～W8（p96-103）」  
課題に対応したシートをコピーしてお使いください。
- ⑤ 「JSL評価参照枠（p104）」  
診断シートに記入した結果を、JSL評価参照枠「書く」に照らし合わせて、  
ステージを決定します。
- ⑥ 「DLA 実施レポート」・「DLA採点表〈全体評価〉」（p. 139-140）  
「診断シート」で得られた結果を記入します。

## （5）実施の前に

### 事前準備

- ・概要・実践ガイドを読み、手順や留意点を頭に入れる
- ・対象となる児童生徒に合わせて課題の目星をつける  
⇒ p.74「年齢枠別作文テーマ」p.75「テーマごとの課題例」を参照してください。
- ・下記の「用意するもの」がそろっているか確認する

### 用意するもの

- ・巻末資料作文用紙のコピー（低・中学年）または原稿用紙（高学年以上）
- ・巻末資料課題プリントのコピー（高学年以上）
- ・メモ用紙（白紙）（書くことを考える際、必要に応じて使用）
- ・DLA〈書く〉実践ガイド
- ・その他 日頃の学習環境や必要に応じて、児童生徒用の辞書・単語カードなどの参考資料

### 【年齢枠別作文テーマ】

作文テーマ	低学年		中学年	高学年	中学生	
	1年生 6-7歳	2年生 7-8歳	(3,4年生) 8-10歳	(5,6年生) 10-12歳	1,2年生 12-14歳	3年生 14-15歳+
W1 動物	◎	○				
W2 日記		◎	○			
W3 大切なもの		○	◎	○		
W4 遊び			◎	○	○	
W5 学校				◎	○	○
W6 日本の○○				○	◎	○
W7 メールと手紙					◎	○
W8 電子書籍と本						◎

◎印がテーマ選択の目安ですが、子どもに応じて○印のテーマを与えても構いません。

【テーマごとの課題例】

テーマ	課題例	*番号
動物	「好きな動物は何ですか。どんな動物ですか。知っていることをたくさん書いてください。まず絵を描いてもいいですよ。」	W1
日記	「楽しかった日を教えてください。何をしましたか。見たこと、聞いたこともたくさん書いてください。」	W2
大切なもの	「大切なものは何ですか。どうして大切ですか。たくさん書いてください。」	W3
遊び	「遊びを一つ選んでください。小さい子にやり方を教えましょう。わかりやすく書いてください。」	W4
学校	『あなたの学校について紹介してください。今の学校でも、前の学校でもいいです。(400字以内・30分)』	W5
日本の〇〇	『日本と外国を比べて違うところを説明してください。テーマ(〇〇)は自由に決めてください。(400字以内・30分)』	W6
メールと手紙	『気持ちを伝えるのにメールと手紙、どちらがいいと思うか、500字以内であなたの考えを書きなさい。(30分)』	W7
電子書籍と本	『携帯で読める本(電子書籍)があれば、紙の本はいらないという意見についてどう思うか。理由とともに600字以内で述べよ。(30分)』	W8

- 実施時間は子どもによって異なりますが、指示する目安としては低学年では10分～20分、中学年では20分～30分としてください。書いた後の対話時間を確保するため、終了の時間を指示してください。

## (6) 実施手順

### ①書く前に

#### 意欲・経験

- ・まずはじめに、意欲や作文を書いた経験について聞き、なるべくたくさん書くように励まします。母語で書いた経験についてもききましょう。

#### 課題・用紙

- ・課題の選択と確認、用紙の選択と使い方の確認を行います。課題や作文用紙を選ばせることで、書く意欲を高めることをねらっています。
- ・低・中学年では、口頭で課題を与えます。まず「テーマ」を与え、何を書くか話し合ってから書くことを決めます。
- ・例えば、1年生で「動物」というテーマを与える場合、実践ガイドでは「好きな動物は何ですか」という問いかけから始まっていますが、好きな動物がなければ、「学校にいる動物は何ですか」のように質問を変えてみるといいでしょう。「好きな」という言葉から自分の好きなもの（車など）について話し始める子がいたら、そのままそれをテーマとしてもかまいません。喜んで書くものをテーマとしてください。
- ・2年生に「日記」というテーマを与える場合も、「昨日何をしましたか」や「日曜日に何をしましたか」というような問いかけが可能です。子どもが書けそうだと思うような課題設定をしてください。
- ・ただし、何を書くかが明確になっていないと正確な測定ができませんので、課題がわかったかどうか、これから何を書くのかについて、書き始める前に確認してください。
- ・質問があれば、その子の年齢・認知レベルに合わせてわかりやすく説明してください。
- ・高学年・中学生には主にプリントで課題を与えて選ばせ、原稿用紙に書かせます。

### ②書きましょう

- ・「書きましょう」では、二通りのやり方があります。
  - (1) 自力で取り組める場合には、取り組む姿勢を観察し、質問などがあれば答えます。書く前に絵を描いたりメモを作ったりしたか、詰まった時にどうしたかなど、書く作業を観察することで、伸ばすためのヒントにつながります。
  - (2) 書き始めるのに支援が必要な子どもの場合には、まず、書く内容を引き出す対話を行い、書きへの誘導・励ましを与えます。必要に応じて、絵を書かせる・手近な資料を参照させるなどの補助手段を用いても良いでしょう。どのような支援があれば書けるのかということが見えてきます。

### ③書いた後で

#### 内容について

- ・まず、書いた内容について話させます。情報の足りないところについては質問し、追加情報を引き出します。特に、少ししか書けなかった場合には、関連する質問をしてたくさん話させましょう。この時、子どもから出てきた答えを、実施者が文の形で繰り返して、より適切な表現や文法構造をさりげなく示します。**★その場で書かせる必要はありません。**
- ・まとまった内容の文(章)を書く経験、話す経験を重視し、**★文字や文法の間違いをその場で直すことはしません。**

#### 取り組みに対する評価

- ・姿勢や取り組みについての対話を行い、やろうとしたこと、できたことに対して肯定的な評価を与えます。子ども自身が、できたことを確認し、達成感を持つことが大切です。

#### 振り返り

- ・書くという課題を達成できたことを確認して終わります。

## (7) 実施上の留意点

＜課題の選択について＞

- ・74-75ページに、年齢枠別作文テーマおよびテーマごとの課題例を一覧表にして示しました。テーマの選び方、課題の与え方によって、測りたい力がしぼられます。測りたい力の上限は児童生徒の年齢によって異なります。また、学習の進み具合によっても測りたい力が異なりますので、子どもにあった適切な課題を選ぶことが大切です。
- 79ページの表「評価の観点と年齢枠一覧」もあわせてご参照ください。
- ・課題例W1～W8には、それぞれ対応する「実践ガイド」と「診断シート」がありますので、選んだ課題に合わせてお使いください。
- ・低学年・中学年の子どもには無理のない課題を与えるようにし、高学年以上の子どもには、課題を二つ示して本人に選ばせるのが望ましいと思われます。

＜書く前の対話について＞

- ・書く前の対話の際に書くことを先生が先回りして言ってしまうたり、口述しながら書き取らせたりすると、子どもの作文力を測ることはなりません。対話は、あくまでも子どもから「引き出す」ための問いかけ・促しの形で行います。
- ・考える力を伸ばすためには考える経験が必要です。具体的な質問を重ねることで、考えさせ、子どもの中から答えを引き出すように心がけましょう。

＜書いた後の対話について＞

- ・書いたことや書きたかったことを振り返ることが目的なので、その場で書き直させることはしません。質問し情報を引き出すことで、より詳しく書くにはどうすればよかったのか、どう書けばわかりやすかったのかなどに自然に気付くことができるようにします。

＜ほめて終わる＞

- ・DLA〈書く〉では、対話を通して児童生徒の最高のパフォーマンスを引き出します。子どもに自信や達成感を持たせるために、書く姿勢についての対話でも書いた内容についての対話でも、ほめるところをたくさん見つけてほめましょう。
- ・先生がじっくり向き合ってくれることだけでも、子どもにとっての達成感は大きいものです。子どもの「できること」をたくさん発見する気構えで臨んで下さい。

### 備考

- ・DLA〈書く〉では、子どもの書き行動の観察を大切にし、いつでも支援ができるように、実施者はそばについていることが理想ですが、支援なしに書けるレベルの子どもが対象の場合には、10分～30分の間、完全に密着している必要はありません。しかし、支援を求められたときには対応ができるようにしてください。
- ・自由度を上げることで書く意欲が高まるようであれば、「○○について書きましょう」のようにテーマだけを与えて、書けそうな内容を自由に探させることもできます。また、子どもの学習状況に合わせて同じような課題を設定していただいても結構です。この場合、実践ガイドの発問例をそのまま使う必要はありませんので、課題に合わせて調整してください。

## （8）評価の方法

- ・DLA〈書く〉が終了したら、採点・評価にうつります。

### 用意するもの

- ・DLA〈書く〉の採点・評価には以下のものを使用します。
  - ・子どもの書いた作文
  - ・課題に対応したDLA〈書く〉診断シート
  - ・JSL評価参照枠「書く」

### 診断シートの評価項目とJSL評価参照枠との関係

- ・診断シートには、課題と年齢枠に応じた評価項目が記載されています。
- ・DLA〈書く〉のJSL評価参照枠と診断シートの評価項目および年齢枠の対応関係を、次ページの「評価の観点と年齢枠一覧」に示します。

### 評価手順

- ・子どもの作文を見ながら、課題に対応する診断シートに示された評価項目について5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。4点、2点をつけてもかまいません。
- ・総合得点を出し、項目数で割って平均点を算出します。
- ・診断シートの評価をJSL評価参照枠「書く」（p104）と照らし合わせ、また、ふだんの学習活動の様子もふまえて、総合的にステージを判定します。
- ・備考欄には母語の状況（家で使用、話せるが書けない、書ける、書く練習をしている、など）を記入しておきましょう。

### 備考

- ・カタカナ語の表記に関する項目が入っていますが、題材によってはカタカナを使わずに書く場合があります。その場合には採点項目から外してかまいません。平均点を出す際も、分母を減らしてください。
- ・まだ漢字の指導が始まっていないことがわかっている場合、診断シート「漢字使用」の項目について採点対象から外してかまいません。平均点を出す場合も分母の数を1つ減らしてください。

### 【評価の観点と年齢枠 一覧】

参照枠 〈書く〉	年齢枠 診断シートの評価項目	6-7歳 (1年生)	7-8歳 (2年生)	8-10歳 (中学年)	10-15+ 歳 (高学年 中学生)
		内容	作文の長さ（文字数）	/	○
	内容の豊かさ（情報の豊かさ，独創性，気持ち，意見など）	○	○	○	○
	表現の工夫（書き出し，会話文，擬態語/擬音語，比喩，副詞，結びなど）	/	○	○	○
構成	全体のまとめ	/	/	○	○
	段落	/	/	○	○
	文と文のつながり	/	○	○	○
文の質・ 正確度	文の複雑さ（複文，従属節など）	/	/	○	○
	文の正確度（語順や活用など）	/	○	○	○
	文末の統一（常体とです・ます体を混ぜずに書く）	/	○	○	○
語彙・ 漢字力	語彙の多様性	○	○	○	○
	語彙の適切性（テーマに合った語彙が使える）	/	/	○	○
	漢字語彙の使用（年齢枠相応の漢字や漢字語彙が使える）	/	○	○	○
書字力・ 表記ルール	ひらがな（特殊音節を含む）	○	○	○	○
	カタカナ語	○	○	○	○
	表記ルール（句読点，一字下げ，縦書き/横書き，「」など）	/	○	○	○
	送り仮名	/	○	○	○
書く態度	意欲と取り組み方（積極的に取り組める，自力で取り組める～支援を得て取り組める）	○	○	○	○
	書く前の準備（絵，メモなど）	○	○	○	○
	書いた後（読み返したり修正したりしようとする）	/	/	○	○